



TITLE:

Incorporation of apical lymph node status into the seventh edition of the TNM classification improves prediction of prognosis in stage III colonic cancer( Abstract\_要旨 )

AUTHOR(S):

Kawada, Hironori

---

CITATION:

Kawada, Hironori. Incorporation of apical lymph node status into the seventh edition of the TNM classification improves prediction of prognosis in stage III colonic cancer. 京都大学, 2016, 博士(医学)

ISSUE DATE:

2016-03-23

URL:

<https://doi.org/10.14989/doctor.k19624>

RIGHT:

京都大学	博士（ 医 学）	氏 名	川 田 洋 憲
論文題目	Incorporation of apical lymph node status into the seventh edition of the TNM classification improves prediction of prognosis in stage III colonic cancer（主リンパ節転移情報は Stage III大腸癌における TNM 分類の予後予測能を改善する）		
（論文内容の要旨）			
【背景】			
大腸癌の進行度分類として世界的に用いられている UICC の TNM 分類第 7 版では、N 因子は転移リンパ節の個数のみによって規定されている。一方、日本の大腸癌取り扱い規約では、第 6 版まではリンパ節の局在を重視し、腸管傍リンパ節への転移を N1、中間リンパ節への転移を N2、主リンパ節への転移を N3 と規定していたが、第 7 版改訂の際に TNM 分類と整合性を図るため、N1 および N2 は転移リンパ節個数に基づいて規定されるようになった。しかし、主リンパ節への転移については N3 として残し、Stage 分類では N2 と同等に扱われている。主リンパ節は、遠隔転移と見なされる大動脈周囲リンパ節に近接し、術後の再発やその後の原癌死を予測する上で、大きな意義を持っていると思われるが、その予後予測能については明らかになっていない。			
【目的】			
主リンパ節転移情報の予後予測能および TNM 分類第 7 版に主リンパ節転移情報を加えた際に予後予測能が向上するか調べるため。			
【方法】			
大腸癌研究会による大腸癌全国登録を利用し、2000 年 1 月から 2002 年 12 月までの間に全国 71 施設で主リンパ節郭清を伴う根治的手術を施行された StageIII大腸癌患者 1355 人を対象としたコホート研究を行った。主要な曝露要因は病理学的主リンパ節転移の有無、エンドポイントは原癌死とした。TNM 分類第 7 版に基づいたリンパ節分類のリスクモデルと TNM 分類第 7 版に基づいたリンパ節分類に主リンパ節転移情報を加えたリスクモデルの予後予測能を C 統計量を用いて比較した。さらに、主リンパ節転移情報による予後予測能の付加能を category-free net reclassification improvement（NRI）および integrated discrimination improvement（IDI）を用いて検討した。			
【結果】			
主リンパ節転移は 113 人（8.3％）に認めた。総観察期間 5356 人年の間に、221 人（16.3％）に原癌死を認めた。TNM 分類、その他の予後因子で調整後も、主リンパ節転移情報は独立した予後因子だった（ハザード比：2.29、95％信頼区間：1.49-3.52）。主リンパ節転移情報を TNM 分類に加えることで予後予測能が有意に向上し（C 統計量の差：0.0146、95％信頼区間：0.003-0.026）、risk reclassification も有意に向上した（NRI：19.4％、95％信頼区間：5.0-33.4％、IDI 0.0146、95％信頼区間：0.0030-0.0262）。			
【結論】			
StageIII大腸癌において主リンパ節転移情報は独立した予後因子であり、これに加えることで TNM 分類の予後予測能を有意に高めることができる。			

（論文審査の結果の要旨）			
<p>大腸癌の進行度分類として世界的に用いられている UICC の TNM 分類第 7 版では、N 因子は転移リンパ節の個数のみによって規定されている。本研究では、主リンパ節転移情報が予後予測因子であるか、そして TNM 分類に主リンパ節転移情報を付加することで予後予測能が向上するかについて検証した。</p> <p>大腸癌研究会による大腸癌全国登録を利用し、2000 年から 2002 年の間に全国 71 施設で主リンパ節郭清を伴う根治的手術を施行された StageIII大腸癌患者 1355 人を対象としたコホート研究を行った。主要な曝露要因は病理学的主リンパ節転移の有無、主要評価項目は原癌死とした。</p> <p>TNM 分類、その他の予後因子で調整後も、主リンパ節転移情報は独立した予後因子だった（ハザード比：2.29、95％信頼区間：1.49-3.52）。主リンパ節転移情報を TNM 分類に加えることで予後予測能が有意に向上した（C 統計量の差：0.0146、95％信頼区間：0.003-0.026）。</p> <p>以上の研究は、StageIII大腸癌において主リンパ節転移情報が予後因子であることの解明に貢献し、TNM 分類の予後予測能の改善に寄与するところが多い。</p> <p>したがって、本論文は博士（医学）の学位論文として価値あるものと認める。</p> <p>なお、本学位授与申請者は、平成 2 8 年 3 月 3 日実施の論文内容とそれに関連した試問を受け、合格と認められたものである。</p>			
要旨公開可能日： 年 月 日 以降			